

あなたに

出逢えて：

— 第二十八号 —

—— 本当に今年は、スタートがとても良くって

十月この月は先生、お神様背負って来てくださって、

私達春美会は、とてもラッキーなんですすよね。．．．



山口先生

どちら様もお忙しい中、今日のご縁頂きました、諸先輩を目の前にして若輩ものですが、至らないところもあります。そのところどうぞお許し下さいませ。

私は、根は神職ではございません。神仏が好きでこの道に入りました。

何かのご縁と思います。学校の勉強よりも、自分の体験からくるものがとても神様仏様が好きで、そういった幼少の頃がありまして自然にこの道に入ったといった方がいいかもしれません。

また、春美先生とのご縁は、三年ほど前でしようか。紫苑さんとご一緒にうちのお宮にお越しになられたのがご縁であります。年に二、三回困ったときの神頼みで、自分が解らないときは先生に聞いております。非常に心の糧でございまして、

私ども以上に崇高な神への信心、清らかなお気持ちをお持ちでございますので、今日のご縁をいただいたわけです。

私はあまり人前では話すのは苦手なんです、今日はわたしの体験談をふくめて神道のお話をさせていたただきたいと思えます。私は神職でございませう、他の宗教と違いは簡単に一言でいえば道がついてます。神の道という、これは教えではありませんので、教理ない、教義ない、經典もない、教祖もない、という日本人のひとつの精神文化ですね。

そこに自分は御奉仕させていただくというこれは言葉に言い尽くせがたいですが、有難い仕事をさせていたただいていると思つてのが事実です。

今日は、何話そうかなと思つたのは、自分達は神主ですから神主さんの一つの道としてこういう一部の資料を添付したんですが、これはこれで通用するわけですから、今日お越しの方々はこれを持つたからといって何も役立ちません、どうしたもんかなと思つたのが・・・

そうか、男女を超えて一人の人として神の国に生きている以上一番基本的な部分だけ分かつていたただければいいかなと思ひました。

その資料の中に吉田松陰先生の妹さんに宛てた書簡を載せています。

『神と申すもの正直なる事を好み、又清浄なる事を好み給ふ。夫れ故、神を拝むには、先ず己が心を正直にし、また己が心を清浄にして、外に何の心もなく、たゞ謹み拝むべし。』

是を誠の神信心と申すなり。その信心が積もりゆけば、二六時中己が正直にて体が清浄になる。是を徳と申すなり。』

慎み拝むべし、素直な清浄な心で、これが大事なんです。ね、神様一番お慶びになられます。そして、有名なのがいよいよ最後の時に松陰先生が両親を思われて先に死んでいく事をお許しください、これまで育ててくださった事をありがとう、と句を読まれますけど、いやいや子供である自分かと思う以上に親のほうが自分の事をもっと自分の知らない所で思ってくれるだろうというのが次の句です。

「親思ふところに勝る親心 けふの音づれ何ときくらむ」

師匠が居ないですから我々は、先生の後姿を見ていくんですけれど、伊勢の神宮をお参りするのにも、必ず無言で資料無しで何の勉強もしていかなくていいんです。伊勢神宮についての歴史も何も知らなくていい、一度行ってみて下さいませ。

宇治橋（俗界と聖界の境界）というのが有りますからそこで一礼されて、静かに他の参拝者の歩調に合わせることをなく、周りの樹やら鳥の鳴き声なんかを堪能しながら、長いです参道は、そしてお参りされて帰ってこられたら、一時間か二時間か一日か二日たったら何ともいえないものが入ってきます。他の神社にもあるでしょうけど、伊勢は特にそれが強く感じます。

そして、アインシュタインさんという方がおられますね、それからトインビーさんとか、世界の科学者も伊勢の神宮に参られまして言葉を残しておられるのが、『神宮は、世界の宗教を超えて世界の人類の一番根底にあるものを育んでいる、日本の神道は素晴らしい』とアインシュタインもトインビーさんも説いています。

外国人の方が良く見えていますね。だから、それはお参りに行かないといけなと思います。

やっぱり故郷だと、母の懐に入るような感じですね、それと同じでホッとするような神宮ですね、今度是非行かれてみてください。

去年はお木曳きで行きました。来年も行きますけど、ご用材を丘で引くんですよ「えんやー、えんやー」と言ってですね。二十年ごとに建て替えるんです。

誰かが言ったんですね、そんな莫大な費用を使わなくて、鉄筋コンクリートとか

にしたら建て替えなくていいのにと。そして、明治天皇様が

『それはなりません、古代、天皇から今日まで古儀は変えてはいけません。』
そのお一言でそれは流れたんですけれど。

それでは何故あんな無駄な事をするかと、東大寺やら法隆寺みたいに木造何百年とかで国宝とかにもなるのにお伊勢さんも立て替えなければいいのに・・・、けど、神道の場合は命のよみがえりですので、太陽と一緒にです、今日の朝日は明日また違いますね。

そんな風で毎日お恵み頂きます、エネルギーといいますがパワーといいますが。その命の連続性が守っているのがこの日々の信仰であり神宮の式年遷宮です。二十年というのは、大工さんが次の大工さんに教え易いという一つの年数もあります。

稲をそのまま湿気が来ないように上に置いたのがそもそも御殿の原点です、穀物倉庫です、ね簡単に言ったら。それで、握立柱で支えてるでしょう、とっても直線的で飾りも無く白木作りで日本人らしいですシンプルです。

仏教もさることながら、日本の国は他所の国に無いものがあります。

他所のギリシャとかイタリアへ行くと、神殿後は有りますよね。でも、そこには神さまもキリスト様もいらっしやいませんね。日本の場合は、そんな建物は有り

ませんね、隠れキリシタンの場合は別ですけど、ご本尊やら御神体が日本には皆有ります、そこでも外人さんはビックリしてます。

イタリアから来る人も言っておりましたけれども、

「私達の国は恥ずかしい、日本は凄いですね」

と、ただ意外と中に居ると分らないですね我々は、外から見ると日本人に生まれるだけで羨ましいといわれます。

凄いなんだなど、四季もありますしね。

日本人はよく水を使います、お風呂も洗濯物もそうですが、命にかけがえないものですけども、洗い流してくれるという・・・、

皆さんは神道と言ったらピンときませんが、朝起き歯を磨いて顔を洗い鏡を見ます、夜はお風呂に入る、常に清らかにしているでしょう日本人って、清潔のためです。

風呂に入る外国人は泡ぶくぶくですけど、日本人は洗うという。水の靈力で洗わせて頂くという、禊（みそぎ）ですねいわゆる、ただ綺麗な使い方をしますね。次の人が入れるように、その辺は国民性が違うみたいですね。それが全部言葉には無いですけど、神道的なものが我々は知らないうちに身についているんです。そんな、感じてすね。思いつきのままで言ってますが。



自分で日々の生活の中で感じる事ばかりなんですけど、今一番多い祈願はですね、うつ病と登校拒否とニートと不登校などの祈願が一番多いんですよ。その次は癌と、色々な病気でですね。つい四年前くらいまではですね、高売繁盛とか合格祈願とか一般の祈願が多かったですけど、最近は努めて個人的な悩みとかか、増えています。

一つ嬉しかったのが、今年、奥様、旦那様、それぞれのご両親が着ておられて、赤ちゃんのお宮参りだったんですよ。普通はお宮参りですから、家族がシャッターを押してビデオを撮ったりされますけども、玉串が終わって降りて来ても皆全員泣いているんです。

「どうされたんですか？ 赤ちゃん生まれて嬉しいはずなのに。」
「言ったら、若奥さんが」

「私はこの子をあと三ヶ月しか抱けないんです。私は医者から後三ヶ月の余命と言われました、もう既に転移してますのでこの子が生まれたときに医者に調べてもらったら、子供の方には転移してなかったの、残していく主人とこの子を寂しくてたまりません。だけど自分は医者から言われているので神様に祈願をして助けてもらおうとは思いません。」
と、そうすると親が泣きだしましたね。

そしたら、お母さんが

「どうしてあげたら治るのでしょいか？何でもいいから言っていただけないでしようか。」

といわれ、そういわれてもね・・・。

「戦争で死んだ方とか、明治やらの頃はおめかけさんもいて反対されて、一人身で遠く行って死んじやったとか。そんな人が居たりするのではないでしようか。上の上の方々をもういつぺん夏のお盆とかでね、一所懸命供養したらどうでしよう。」

親は藁をもすがる思いだったそうです。

そしたら八月の終り頃、賽銭箱の前に正座して五分くらい長く拝んでいるかたがいらしたので、

「どうかされましたか？」って、私は顔を忘れてますから、

「この間の、あの時の私でございます。」

ビックリして出た言葉が失礼な言葉で「この世にいないんじやなかったの！どんなにしましたか？」って言ったらげらげら笑ってから、

「お陰で癌がマッチの棒三つ付いたくらいポイントにちっちゃくなって、他は消えました。」と話されて、これは唯一楽しい嬉しいお話でした。

昔の人ほど、神や仏というか精霊と言いますか、非常に大切に思うし、また感じあつてた。だから水には水の神様が居られた、今は水道があります。雷も神様、今は電気で火もおこせます。段々科学万能になりましたから、古代のいう人の気持ちがあつた人は分からなくなつてきた、あれは昔話で昔の人だからよ。それはそれで良いんでしようけど、肝心の物や天地自然そういうものに対するところという自分のありようが粗雑になつてきて、鈍化されて、その辺が日本人の今の寂しい所かなど。

草や花や土や石やみんな魂というか精霊というか、声をかけてあげる。お互い様だという気持ちになつて、お花さんにも「ここで咲いておくのも良いけど、ちよつと切らしておくれよ。貴方のお陰で沢山の人のここを和ませ喜んでもらえるからいいじゃろ。」と断り言うことやっぱり良く咲きます。そんな風で、素朴な「まんまんちゃん（仏様）、母ちゃんおつての（いるの）？」て言うたら「ああ居るよ、まんまんちゃん様もうね」という、ああいう理屈では通らんところの一つの慣習というか、おじいちゃんおばあちゃんおばあちゃんの時代はね。それを今の親子さんがされたら良いなと思います。

今は直ぐに原因と結果ばかりを追求して途中の過程を重要視しないでしよう。あせりすぎじゃないかなと思いますね。可愛そうですね、子供さんも受験受験で

県立高校や大学に行ってから、「何になりたいんですか？」と聞いても、「分かりません。」といわれます。「ただ親のイエスマンになってただけです。もう親は嫌いですから。」

この間、お母さんと娘さんが来て。今娘さんが京都の大学の三年生。お母さんがですね

「娘が夏休み帰ってこないから、やっとおばあちゃんあちやんの法事ほふしのときに帰ってきたんで今日は連れてきました。今日はお宮さん娘を怒ってくれ。」と言われ、

「何を怒ったら良いんですか」と言ったら、
「家に帰って来ない。一人暮らしで親は心配しているのに。同棲しているとか、してないとか言うし。」

それは親子の事だから立ち入れないなと思つて。お母さんがトイレに行っている間に娘さんに

「どうしたんですか？」と聞いたら、

「小学校から高校生まで、とにかく勉強めいんしなさいという事と、近所の手前があるからと親の面子で、途中から友達と話し合つて家ではハイハイと言つておこようよ。それが一番簡単よと言つて、何でもハイ、ハイで笑顔で来ました。もう大学に行つて、自分を作るのは嫌だと。一人暮らしになつて自分が出せた。もう親は親と

思わん。」

って、親にそれを言ったら泣き始めましたけど、しょうがないですよね、戻れませんかよ。目線が合わなかったんでしょね、子供さんと親の目線が。子供さんも大変ですね、そうだったら。

「貴方、子供できたらどうしますか？」と聞いたたら、「自分が味わった事はしない。」と言っていました。

だから今は価値観がバラバラであって、中心がなくなってますんで、基準が。これだけメディアが情報を発信しますから、もう分刻みで動きますので、生きていくほうも半分不安で遅われているような感じですよね。

だからこうやって先生と月一回集まれるというのは、一つの温泉に入るようなものでこのころの癒し。ここにきて先生と話されて明日からの生活が見るからに目立ってどうこうなるわけではないはずなんですよね。でも、そんなころの薬が大事ですよね。

それから一つだけ、皆さんにお願いがあります。

先祖様の供養だけは、どうか欠かさずに、私の主人は次男だし本家ではなくて新屋だから関係ない、お仏壇は本家に有るし長男さんが持っているのだから、とい



う所もあります、お仏壇が有ろうがなからうが、また信仰の自由ですので個人的にはどの宗教信じられても結構ですが、親は一つでございませう、先祖様の祭りの宗派といひますか、お道だけはどうぞ変えられませんように。

お仏壇の前に座ってお線香立ててチンと鐘を鳴らして手を合わす、それも結構ですけれども、心というものが入らないと意味が有りません。

形だけでお経を三回読むよりも、こういう場所で、お料理が並びます時にすぐに頂きますと食べずに、必ず自分とところのご先祖様のお名前を心の中で述べてそして、ご先祖様どうぞお先にお食くださいませと、三分ぐらい待ってお食べになるとか。

それから、綺麗にお風呂掃除した時に、綺麗なタオルを置いて着替えのさらしを置いてあげて、どうぞご先祖様一番風呂おは入りください。あるいは水子さんが居られる方は、水子ちゃんお母さんの事悪く思わないでね、体調悪かったからこんなになつただけだね、ずっと貴方の事忘れてないよ、一生涯ぬまでお母さんといっしよだからね。とお乳に変わる牛乳上げたりとか、あるいは、今日一緒に買い物行こうか、今日は一緒におねんねしようかとか、そう言つて必ず声に出して語り掛けてください。

そして、先祖様はつい最近の明治大正じゃなくて奈良平安時代までをぐーっと

イメージされてどなたも漏れなく皆々様と言ってあげないと、漏れている方あるいは先祖様でも身分があったりしましよ、遠慮されて食べられないお子さんもおありでしょうから、水子ちゃんから童子さんから．．．じいちゃんばあちゃん、漏れなく皆々様と言って、日頃からそうしておられると、妙な事もないと思います。親孝行でございますので。

よくご先祖様に、今日一日頼むよ、今日仕事行ってくるから頼むよとか、先祖様にお礼を言っているのかと思ったら、あれは逆ですよ、先祖様には孝を尽くさなければいけないのですからね。

今〃しあわせ〃という字を幸福の幸を〃しあわせ〃の字にしますけど、昔の江戸時代までは奉仕の仕に令計の令を『仕令せ』という、その仕えるという字の上には親がおったり、彼がいたり子がおったり、あるいは神がおったり仏がおったりとか、相手の気持ちに成って自分を仕える事において、気と気が合うんで仕令せと。

だから、奥様はご主人に貴方が居るから今日奥さんとして居れる、母として居れる有り難うって言ったたら、ご主人の方も貴方のお陰で父であり主人であるなど、相身互いで仕令せを感じるといふ、これが個的なしあわせばかりを追求するから幸福の幸の字になってしまいます。

是非ご先祖様だけは、新興宗教にだけは入らないで下さいませ、あれは惑わされるばかりです。今、摺み所のない時代になっています。どうか淡々と自分マイペースでいいと思います。僕をはじめ皆さんある意味では着物を着ていますね、家にいる時みたいに服脱いでやれやれと、あれいいです、ああなるといいですね。

春美先生

そうですね、春美会の方って意外と裸に近い方が多いと思うんですよ、色んな物をつけてきていると吸収しにくいでしょう。

山口先生

そうですね、澄んでおられますね。

先ほど会場に入った時に、普通宗教団体って言ったら変ですけど、よどんでるんですよね、どろーとして、そういう団体さんもねお参りに来られたりしますけどね、それがないのここ！

春美先生

あのね、ぜんぜん宗教団体でも何でもないんですよ春美会は。

山口先生

そう、すかっと清らか。

春美先生

やっぱり有難いものを自分の体に吸収しようというような感覚が皆さんおありだと思うんですよね。だから、先生のお話も難しいと思うんですよとても、だけでも、それなりに一生懸命、今の状況の中でずっと吸収しているのが分かるんです。

ほとんどの方聞いて有りましたものね。もう難しいからやめよう聞くのはという人が居なかったですよ、だから、有難いなと思いました。

本当に、山口先生には良くぞ来てくださいました、と思いますね。

山口先生

人間弱いですからね。尋ねますね、で、教えてもらったりしますね。お返しになればと思います、それもありました。

素晴らしいながら、意地悪なんですよ、去年、試したんじゃないんだけど、「あなた、ここに腸癌の気があるよ」といわれて、知人が大腸がんで、病院に入



った時には遅くて、たった二十八日間で死にました。ついその事と自分もダブリまして、医者嫌いですから春美先生に電話入れたら、先生ちようど石川県ですね、白山に行かれてる車の中でして、こちらは携帯で、なんも言わんのに『あら、山口さんお腹が痛いね』

「そうですよ」

『ちよつと押さえなさい』

と言われて右が痛かったけれども意地悪で左を押さえたんです、そしたら

『どこを押さえているの、全然違うわ』

と言われて、また違うところを押したら

『そこじゃない！』

よく分かるなと思って、で最終的に左を押さえたら

『そこそこ、今から取りますからね』

そしたら、五分もしないうちに痛みがないんですよ、その時先生が

『病という意識を外しなさい、もともと元気なんですよ』

この言葉は、どなたか相談された時に活用させてもらっています。

春美先生

いや、もう先生自体がもう本当にわかってあるんです。やはり、お互い様で五分五分なんですよね人間は。

春美会の人達から先生と呼ばれるけど結局は五分五分でいっしょなんですよね、やっぱりその人から吸収しているしその人から学んでいる、ちよつとだけ私が別の力が有るのかもしれないですけど、結局五分五分と思うんですけどね。内面は一緒じゃないかなと思います。一緒に視線じゃないと出来ないですよ、私が上なんですよとか、私が直そうとかいう気持ちじゃなくなつて、やはり媒体と思つているので、一緒にのよつていう感じ。

だから先生とも心が一つになれたからさつと入つていったんじゃないかと思うんです。

山口先生

そうですね、頭で考えてはいけません信心事は、おじいちゃんおばあちゃん、お父さんお母さんの後姿を見てお子さんは育ちますので、お彼岸、お盆はきちつとしないとくください。

神とか仏とか誰も見たこと無いですよ、居るといえば居る居ないといえば居

ないといえますからね。

だから宗教とはなんだろうかと思つたら、とどのつまり誰も解明した人は居ないから、要は生きている間の一つの自分を律するバランスシートの道徳的なものかもしれませぬね。

春美先生

日本の本当に知らなくてはいけない内容であり、先生が今の時代に合った話方をしてくださつたので自然と浸透して、心地いい気持ちで神様の話を聞かせていただきました。

今日は本当に学びになって、有り難うございました。

*
*
*
*
*

*
*
*
*
*

— あとがき —

心っていうのはいつも 色んな心があつて

この世の中は対人間ですし
花に対しても、木に対しても、人に対しても
一杯色んな心があるから・・・

心の中の一つ一つを
正しい心に切り替えていったならば
それが向上するんじゃないかと 思います。

第四十四回春美会

会場 魚一

日時 平成十八年十月十三日七時半

— 司会・紫苑 さん —

より



*
*
*
*
*